吉祥天

吉祥天（きっしょうてん）は吉祥天（きちしょうてん）とも知られ、豊穣、幸福、富、美、功徳の神とされる女神です。ヒンドゥー教の女神ラクシュミーに由来します。吉祥天に対する日本の信仰は奈良時代(710~94年)に広まります。

この吉祥天像は、刺繍の入ったガウンと頭飾りを着けた唐(618-907)の美人の宮女としての女神の典型的な表現です。彼女の左手は望みを満たし、富を与え、苦しんでいるすべての人に恵みを与えるという願いを叶える宝石を支えています。吉祥天と弁財天の女神が混同されることが多い吉祥天ですが、別物であり、この宝石が区別してくれます。 この時代の彫刻としては珍しい原色の痕跡がはっきりと残っており、像は12世紀までさかのぼります。この像は高さ2.15 m の木彫像です。